

香川県多面的機能支払事業推進委員会議事録

日 時 令和 7 年 10 月 30 日（木）9:30～11:00

場 所 県庁北館 3 階 304 会議室

出席者 大平(輝)委員、大山委員、小川委員（委員長）、西亀委員、三原委員、山中委員(副委員長)
(五十音順)

- 議 事
- 1 令和 6 年度の実績について
 - 2 令和 7 年度の実施状況について
 - 3 多面的機能支払事業の推進について
 - 4 その他

議事の説明（事務局）

議事 1 令和 6 年度の実績について

- 令和 6 年度、農地維持支払交付金は 301 組織が 14,134ha、資源向上支払（共同）は 200 組織が 12,362ha、資源向上支払交付金（長寿命化）は 163 組織が 11,410ha で取り組み。
- 交付金額は、農地維持支払が 401 百万円、資源向上支払（共同）が 195 百万円、資源向上支払（長寿命化）が 298 百万円。
- 本県のカバー率（取組面積÷農振農用地面積）は約 57%と全国平均並みであり、中国四国平均を 14 ポイント上回る状況。

議事 2 令和 7 年度の実施状況について

- 令和 7 年度における制度改正は、加算措置の追加等と環境負荷低減のクロスコンプライアンスの要件化。この他、事務負担軽減の一環として様式の簡素化や入力負担が軽減。
- 令和 7 年 9 月時点で、農地維持支払交付金は 301 組織が 14,392ha（前年から組織数の増減なし、面積は 258ha 増）、資源向上支払交付金(共同活動)は 191 組織が 12,469ha、資源向上支払交付金（長寿命化）は 163 組織が 11,727ha で取り組んでおり、活動を継続できなかった組織はあったものの、新規設立や既存組織の合併や取込により、組織数は変わらず、取組面積は増の見込み。

議事 3 多面的機能支払事業の推進について

- 令和 6 年度に重点化した取組方針として実施した、「広域化の推進」、「防災重点農業用ため池の本交付金を活用した管理の推進」、「水田の雨水貯留機能の強化（田んぼダム）の推進」、「意見交換会の開催」、「活動継続の推進」、「出張相談窓口の設置」に加え、「地域住民や非農家の参画促進」や「防災重点農業用ため池の管理の促進」について説明。
- 組織に対して実施した“子供が参加する活動に対するアンケート”の結果を説明。
- 組織の課題と対応する取組みとして、意見交換会等で聞かれる組織の課題と対応する従来の取組みの説明に加え、新たな対応と検討事項として、外部団体等とのマッチングの仕組み構築や子供が参加できる活動の促進、事務支援ソフトの導入啓発について状況を説明。
- 前年度の委員会で意見のあった本事業の効果についての P R 資料を紹介。

議事 4 その他

- 特になし。
- 各議案での質疑・意見交換の内容は次のとおり。

議事録

議事 1、議事 2について

- A 委員** 農業者等が補助金を受ける際に伴う事務作業について、今回の改正で事務の簡素化も含まれているが、現場での状況はどうか。また、取り組み組織数について、合併による発展的な減少と、続けられないということでの純粋な廃止があると思うが、どんな傾向があるのか。
- 事務局** 事務作業の負担については、まだ多くの方から軽減して欲しいとの声を伺っている。活動の中心が農業者かつ高齢者であるため、パソコンを使うことが苦手という部分もあり、事務の簡素化という意見は多い。組織数については、合併による減少もあるが、継続困難による純粋な廃止も一定見受けられ、その理由として役員や事務局を引き継ぐ次の世代がいないという声が多く聞かれる。先週、国の方に来ていただき、活動組織を集めて研修会を行った。事務軽減に関する意見も多くいただいており、国からは継続検討ということでお答えをいただいている。引き続き国へ訴えていきたい。
- A 委員** 補助金の使われ方には説明責任が伴うため、一定程度はご負担をいただかなければならないということを活動組織にはお願いしている。しかし、高齢化が進み、市町で農業関係の仕事をしていた方がいる組織は比較的事務作業に対応できるが、そういう方がいない組織では、是非、国や県で手助けを今後もお願いしたい。
- B 委員** 事務作業は負担が大きいと思うが、AI と対話型でやりとりできれば複雑なところも軽減できるのではないかと。説明責任を伴うため、正確性に注意する必要があるが、国や県レベルで開発いただければ負担軽減が進むのではないかと。
- 事務局** 他県では AI ではないが事務支援ソフトを導入している例もあるので、検証して活用できるようにであれば推奨していきたい。AI を活用したシステムは開発費が大きいと思われるので、国へそういう手法があることも伝えていきたい。
- C 委員** 組織数は令和 6 年度から令和 7 年度見込みでは変わっていないが、取り組み面積は大きく増えており、大規模化が進んでいるということだと思う。大規模化が進むことについてはどうお考えか。
- 事務局** ご指摘のとおり、組織数は変わっていないが面積は拡大している。面積拡大の要因は、事務作業を担う人がいなかったことで活動ができなかったエリアの取り込みなど、合併により事務局が 1 つとなることで面倒を見ることができるようになったことがあげられる。加えて、新規組織の設立もあり、取り組み面積は増となっている。県では広域化を推奨しており、拡大により事務を担う方やリーダーを探しやすくなるとともに、高齢化により活動に参加できる人が減少している傾向もある中、参加者の確保がしやすくなると考えている。
- C 委員** 事業の背景として、農業従事者の減少の緩和や農泊を増やす、農家の実収入を増やしたいということが根底にあり、1 つの方法としてこの制度があると思っている。大規模化というよりも組織を維持できるようにしていくことが重要ではないか。そのためには、事務もできる、人を増やす、若い人が入る環境を作ることが必要ではないかと思う。これらに対し、どう改善につながるのかを読み取りたくてお尋ねした。
- 事務局** 広域化の推奨の主な目的は、活動をいかに継続させていくかということ。広域化により構成員を増やすことにつながるの、県としては土地改良区単位で 1 つの組織となるよう推進しており、施設管理を土地改良区が担っている中で関連性が大きいという

ことで、そのノウハウも取り込み、かつ事務委託により事務負担の軽減を図っている。そういった中、若い人が活動に参加いただけない要因の1つに農業への理解が深まっていないことが考えられる。このため、環境活動や農業体験といった活動も推進し、理解を促進させていくことを進めている。また、国では人がいないということで、アルバイト募集や企業との連携による外部人材の確保も推進されており、県としてはこういったことも検討していきたい。

議事3、議事4について

B 委員

新たな対応と検討事項ということで、外部とのマッチングや子供の参画とある。子供というのが高校生や大学生まで考えるのかというところはあるが、やはり農業は大切なので、授業として、農業には楽しいところと苦しいところの両方があり、誰かがやらないと飢えてしまうし、海外にすべて依存してしまうので誰かがやらなければならないが、苦しいところや誰かがやらなければならないということばかりを教えるしまうと誰もやりたくなくなってしまう。農業が儲かる、かつこいい、楽ちんということも含めて、君たちがこれからいろいろなことを開発して楽ちんになってきて食料生産も担えるようになるということを教育していくことは非常に重要と思う。例えば、高校や大学には数万人単位で学生がいるので、そういったところとも連携し授業の一環として取り組むことも必要なのかなと思う。

事務局

きつい、しんどいというところも農業の側面としてあり、一方で我々の食を支える重要な産業である。現在、県では農業大学校の将来検討を行っており、農業大学校の将来ビジョンの中の地域との連携を図るというものの中で、多面的機能支助的な活動に対しても参画を盛り込んでいけないかということで、今後の委員会でお示しできればと考えている。農業高校もいくつかあるので、地域密着の活動として多面の取り組みに参画するのも1つのやり方と思うので、引き続き検討させていただきたい。一方で普通高校や大学などとのコラボレーションというものの、民間企業とのマッチングは進めていこうとしているので、その中に大学も入っていただくということも選択肢としてご相談させていただきながら検討していきたい。

D 委員

農家の一員として多面的機能支払に関わり、県に農地を広げていただいている地区に住んでおり、水路掃除は年寄りなので大変というのは聞いている。田植え時期になると水路掃除が始まり、地域は団地化が進んでいるので団地の方にも出てもらっている。子供がいる家庭は出てきてくれるところもあるが、子供がいない若い家庭は出てこない場合も多い。子供に対してはこういったところは危ないよといった啓発もしていければと思っている。基盤整備していただいている農地も、若い人に農業をしてもらうにあっては、5畝6畝よりも1反、1反よりも5反という感じで整備していただきたい。それができると今後は草刈に皆さん翻弄され、今までのコンクリート畦畔が土畔になるので年寄りには難しいところもある。地域や多面組織を巻き込みながら、次の世代におろしていけるような取り組みが広がればよいと思う。

事務局

いわゆる混住化が香川県は特に進んでおり、施肥や農薬散布により近隣の方からクレームがあるということもお聞きする。地域の方の農業への理解を深めることが大事ということで、小学校からの教育や住民の方への理解促進を引き続き進めてまいりたい。ほ場整備に関して、香川県は全国に比べ低位にあるので、国の予算獲得に努めつつ、次世代に良い農地が残せる環境を作っていきたい。

E 委員	私が住んでいる地域は都市部ではなく郡部であり、組織には自治会として参画している。自治会も10年すると3分の1の戸数になるのではないかとこのところである。池や水路の泥上げをするが、力仕事なので大変。人が少なくなり、どうしても負担が増える中でも環境の維持はしていかなければならないと思っている。組織も広域化していくと思うが、人の確保が最も大切だと思う。
事務局	高齢化が進み、非農家の方もおられる中、実作業について一足飛びに解決は難しいかもしれないが、長い目で見て、広域化の促進や外部の人の呼び込みを図り、うまくいくところがあれば事例の横展開を図り、先進的なところも作りながら情報共有し、人手が足りないところのお手伝いができればと考えている。
F 委員	持続していくために次の世代にどうするのかというところで、子供が参加する活動に対するアンケート結果をみると、9割は子供が参加する活動は重要と感じているが、実際に取り組んでいるのは4分の1ということで、このギャップをどうするかがポイントと思う。ノウハウや余裕がないということについて、何らかのサポート、情報共有すればよいのかなと聞いていた。継続的な活動が難しい課題がある中でここをクリアするのが大事と思う。ギャップを埋めるための対応についてどのようにお考えか。
事務局	ご指摘のとおり、4分の1は取り組みされているので、今年度、その内容を情報収集し、取り組みが行われていない理由に余裕がないこともあげられている中で、負担が少なくできるようなノウハウが共有できれば、自分たちもと新たに取り組むを考えていただける組織もあると考えている。まずは情報収集し、広がりを持たせられるよう啓発を進めていきたい。
B 委員	子供が参加する取り組みということで、今の子供たちも忙しいので、平日に授業の中に組み込んでいくのがよいように思う。農政水産部だけでなく、教育委員会や大学との連携などが非常に重要だと思う。
C 委員	事業の効果について、直接的な効果がこれだけあるということですばらしいと思う。昨年度の委員会では、活動を行うことによって農業従事者の減少をとどめているとか、制度と直接は関係ないかもしれないが、農業従事者の平均年齢が下がるとか、収入が増えているといった傾向は見えないかということをお尋ねした。農政水産部の中でそういうデータがあれば安心できるというか、良い事業をしているなどと思うが。
事務局	実情として、農業従事者の減少には歯止めがかかっておらず、高齢化も進行している。そういった中、農地の保全や地域の維持により担い手が農業をやりやすい環境を整えているということで、担い手への農地集積や農地の保全管理の一助となっており、数字として目に見えるというよりは、定性的な効果のほうが大きいと思っている。ほ場整備が進めばスマート農業もやりやすくなり、かける時間が少なくなって実質的な所得向上につながる。数字でお示しできず申し訳ないが、側面的な効果として制度の意義があるのかなと考えている。
C 委員	何年か前の委員会で地域の方の直接的な声を聞いたことがあったが、非常に前向きな評価だった。ご説明いただいたのも、取り組む中で地域の方からの声ということで理解した。
事務局	本来的には、制度により若手の就農が促進や平均年齢が下がるというのが望ましいが、なかなかそこまでは望めないというのが実情と考えており、ご説明した推進方策により、少しでも地域の役に立てればということで推進している。
A 委員	この制度は、農業そのものを成長産業にするという役割ではなく、農業を持続可能に

する手段としての事業と私は思っている。農業がよくなっているか、就農が増えているか、所得が増えて子供達が農業をやってみようとなっているかと言われれば、なかなか数字が出てこない。しかし、増えていないかもしれないが、やらない場合と比べると減少をくいとめているとの見方もできるのではないか。この制度とは別の話だが、産業としての農業を国が議論すべきと思う。多面的機能支払がつなぎの制度だとすれば、つながないといけない農業のあり方を国が議論して、農業が必要ないと言う人はいないと思うが、すべてに優先して農業をするかという、外国から安いものを買ってくればよいとか、中山間地域にお金を入れなくても、他にやり方があると言う人がいるかもしれない。私は、日本は瑞穂の国といわれるくらいなので、農業がなければ日本の特徴はなくなるのではないかと考えていて、本丸の農業そのものを本当の産業にしたい。ただそれが今はできないので、国は本来の機能ではない周辺の寄せ集めを多面的機能というが、本来の機能である食料生産を、国としてどのように位置付けるのかということを議論していただきたいと思っている。

B 委員

それでは時間となりましたので、議事を終了したいと存じます。委員の皆様、本日はどうもありがとうございました。